

2015 年度 K I P P 対人関係精神分析セミナー

ご あ い さ つ

陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より KIPP 対人関係精神分析セミナーに温かなご支援とご理解をいただき、厚く御礼を申し上げます。本セミナーも今年度で 12 年目を迎えました。そしてまた一年、たゆまぬ努力を積み重ねていく所存でおります。どうか今後とも皆様の変わらぬご支援をいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて今年度は、「心理臨床の諸領域と対人関係論の接点 2」というテーマで、昨年引き続きいくつかの精神病理について取り上げることにいたしました。今年もまた KIPP の講師陣だけではなく、それらのテーマについて造詣の深い他学派からの講師もお迎えして、多角的で立体的な議論を行っていきたくと考えています。

また今年度も 5 回のシリーズ・セミナーに先立って、「対人関係論の基礎セミナー」を開催いたします。こちらの方も是非とも皆様のご参加をお待ちしています。

本セミナーでは、講師の方々だけではなく、参加される皆様とのあいだでの活発な対話が行われることを通して、精神病理の理解についての新たなアイディアがもたらされることを目指しています。そしてその学びが、私たちの日々の臨床の現場への貢献となることを期待しています。

どうか多数の皆様のご参加をいただけますよう、心よりお待ち申し上げます。

京都精神分析心理療法研究所 研修委員長 横 井 公 一

連絡先：一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所 研修委員会内

〒612-8083 京都市伏見区京町 4 丁目 156 番地 1 桃山ビル 3F

KIPP 桃山心理オフィス内

Tel & Fax : 075-623-0823 e-mail : kippmail@nifty.com

ホームページ <http://www.kipp.jp/>

2015 年度対人関係精神分析セミナー

今年度の対人関係精神分析セミナーは、「心理臨床の諸領域と対人関係論の接点2」と題した5回シリーズと、「対人関係論の基礎セミナー」を1回行います。昨年度のセミナーは例年に増して好評をいただきました。これを受けまして、様々な臨床領域で出会う現象を精神的に把握し理解するという形式を今年度も踏襲しつつ、各回のテーマ設定を昨年度とは異なるものとなりました。このような構成をとることにより、昨年度セミナーに参加され他のテーマについて継続して学びたい方々にとっても、昨年度参加されなかったものの今年度新たに学びたい方々にとっても、有意義な研修の時間となると考えました。

「心理臨床の諸領域と対人関係論の接点2」シリーズでは、心理臨床の実践を行うにあたって、どのような現場においても避けて通れないテーマを並べています。「ヒステリー」、「強迫」、「解離」、「統合失調症」、「自己愛」といった病理、機制やパーソナリティのあり方は、いずれも私たちが日々向き合っているものです。このセミナーシリーズではテーマの理解を深めるとともに、対人関係／関係精神分析の立場からどのように考えることができるのかという点にも触れていただく予定です。

また、対人関係学派の精神的心理療法に関心のある方、心理療法の初学者を対象に「基礎セミナー」も行います。こちらは、対人関係精神分析にとって重要な用語や考え方を、基礎的な理解から始めつつ講義していただきます。

今年度もこれまでと同様に、私たちの日々の臨床において直接的にあるいは間接的につながっていく、現場の視点を大切にするセミナーにしていきます。講義テーマについてどのように捉え、定義するか、そして臨床においてどの点を重視するか、といったことは講師によって異なるでしょう。なぜなら、セミナーで扱われるそれぞれのテーマは、援助現場における固有の出会いによって日々更新されるものだからです。私たちは、講義や事例検討を通じて、講師の先生方が経験された出会いの痕跡のひとつひとつに触れながら、学んでいきたいと考えています。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

なお本セミナーは各回とも、臨床心理士の研修ポイントに申請予定です。

日程・プログラム

日程	講師	講義テーマ
「対人関係論の基礎セミナー」		
2015年 5 月 24 日(日) 午前11時～午後5時 会場：キャンパスプラザ京都	辻 啓之 野原 一徳	対人関係論の基礎

日程	講師	講義テーマ
「心理臨床の諸領域と対人関係論の接点2」		
① 2015年 7 月 5 日(日) 午前11時～午後5時 会場：キャンパスプラザ京都	岡田 暁宜 横井 公一	ヒステリー
② 2015年 9 月 6 日(日) 午前11時～午後5時 会場：キャンパスプラザ京都	成田 善弘 鈴木 健一	強迫
③ 2015年 11 月 1 日(日) 午前11時～午後5時 会場：未定	岡野 憲一郎 吾妻 壮	解離
④ 2016年 1 月 17 日(日) 午前11時～午後5時 会場：未定	杉林 稔 川畑 直人	統合失調症
⑤ 2016年 3 月 6 日(日) 午前11時～午後5時 会場：未定	上地 雄一郎 鑪 幹八郎	自己愛

- ◇ **会場**：キャンパスプラザ京都、メルパルク京都等を予定しております。
(未定分につきましては、決まり次第ホームページ <http://www.kipp.jp> に掲載します。申し込みをされた方には、郵送、e-mail、Fax 等で通知いたします。)
- ◇ **定員**：90名程度
- ◇ **受講料**：セッションごとの申し込み（基礎セミナー／「接点2」シリーズ）

一般 7,000円 学生 6,000円

 「心理臨床の諸領域と対人関係論の接点2」シリーズ申し込み(全5回)

一般 30,000円 学生 25,000円

■ タイム・スケジュール

第一講義	昼食	第二講義	休憩	事例検討
11:00 ～ 12:30	12:30 ～ 13:20	13:20 ～ 14:50	14:50 ～ 15:00	15:00 ～ 17:00

◇ 「対人関係論の基礎セミナー」

2015年5月24日（日） 『対人関係論の基礎』

「好奇心が面接を豊かにする！」

講師 辻 啓之

「私は面接において好奇心をととてもとても重視している。」そんなことを言って、驚かれたことが何度かある。思えば私も KIPP で精神分析的心理療法の訓練を受ける前は、好奇心にさほど注目していなかった。なぜ、対人関係精神分析的心理療法において好奇心が重視されるのだろうか。ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所の精神分析家であるドンネル・B・スターンとサンドラ・ビューチュラーの好奇心についての論考を参照しつつ、対人関係精神分析的心理療法の基礎をなす臨床姿勢を明らかにしたい。

★参考テキスト

- D. B. スターン／一丸藤太郎他訳 (2003) 『精神分析における未構成の経験』 誠信書房
S. ビューチュラー／川畑直人他訳 (2009) 『精神分析臨床を生きる』 創元社

「関与しながらの観察について」

講師 野原 一徳

様々な心理療法や精神分析の学派と同様に、対人関係精神分析においても「詳細な質問」「解離モデル」「操作主義」「二者心理学」など、自らのアイデンティティの拠りどころとなるような概念や考え方があつた。今回は、そのなかでもサリヴァンが提起した「関与しながらの観察」を中心に据える。関与と観察という、この矛盾をはらんだ二面性のある用語を用いることにより、私たちは心理面接や心理援助の場面においてどのように思考を拡張することができるのだろうか。講義では、用語の解説から始めて転移-逆転移、そして現代対人関係／関係精神分析の一端まで触れることを目的としたい。

★参考テキスト

- H. S. サリヴァン著／中井久夫他訳 (1990) 『精神医学は対人関係論である』 みすず書房

◇ 「心理臨床の諸領域と対人関係論の接点2」

第1回 2015年7月5日（日） 『ヒステリー』

「ヒステリーと精神分析」

講師 岡田 暁宜

精神分析の基本概念や分析の技法は、S. フロイトのヒステリー治療から誕生したと云える。ヒステリー概念は、精神病理学に大きく貢献したにも関わらず、今日の精神医学からその姿を消しているようである。このような社会的抑圧の中でヒステリー概念の臨床的意義は、むしろ高まっているのかも知れない。中でもセクシュアリティと身体性はヒステリーの中心的力動として重要である。本講義では、主に欲動論と自我心理学の立場からヒステリーについて検討する。

★参考テキスト

S. フロイト／芝伸太郎訳 (2008) 『フロイト全集 (2) 1895年－ヒステリー研究』岩波書店

「対人関係学派はヒステリーをどのように考えてきたか」

講師 横井 公一

サリヴァンは「臨床単位は治療における引照枠の一つである」（すなわち、一つにすぎない）と述べた。「ヒステリー」は自我心理学派の定式化によれば、ある種の自我の防衛機制が特に優位な病態である臨床単位と考えられるだろう。しかし対人関係学派は、むしろヒステリーの対人関係の持ち方（パーソナリティ）に関心を抱いており、それはそこからもたらされる転移 - 逆転移についての研究に寄与してきたように思われる。本講義では、対人関係学派のヒステリーについての見解が何を生み出してきたのかについて文献的な考察をしてみたい。

★参考テキスト

Lionells, M. (1986): A Reevaluation of Hysterical Relatedness. *Contemporary Psychoanalysis*, 22: 570-597.
Bollas, C. (1987): The psychoanalyst and hysteric. in "The Shadow of the Object". Free Association Books Ltd, London. (館直彦監訳 (2009) 『対象の影』岩崎学術出版社)

第2回 2015年9月6日（日） 『強迫』

「強迫症の臨床」

講師 成田 善弘

強迫は古くて新しい問題である。古くから統合失調症との関連が注目され、近年ではうつ病、摂食障害、境界例、発達障害などとの関連が注目され、その本態をセロトニンの調節障害とみる見方が有力である。

ここでは強迫症状を呈する昨今の青年期患者の特徴について述べ、ついで強迫性障害の精神療法について、受診しない患者の心理について、家族への援助について、初回面接について、精神療法のストラテジーについて、私自身の経験をふり返り、若干の考察を述べる。

★参考テキスト

成田善弘 (2002) 『強迫性障害—病態と治療』医学書院

「強迫症学生に対する対人関係学派の理解と実践」

講師 **鈴木 健一**

学生相談の現場では、強迫症に悩む学生は極めて稀であるが、発達障害や対人関係の問題をベースに抱える学生が、大学生生活に適応するために、強迫観念や強迫行為を用いることは多い。サリヴァンや他の対人関係学派が主張する強迫症への理解や実践を振り返り、学生相談の現場における強迫症学生との実践を紹介し、彼らへのアプローチについて、フロアの皆さんと一緒に検討したい。

第 3 回 2015年11月1日 (日) 『解離』

「解離」

講師 **岡野 憲一郎**

解離は精神医学的な関心だけでなく、現代の精神分析においても注目を浴びつつある。この講義では解離の概念の変遷と、その臨床的な意義について論じる。従来の精神分析ではフェアバーン、ウィニコットなどが解離について論じているが、サリバンの貢献も同様に重要である。そしてそこから学んだ現代的な解離理論を提唱する分析家としてはドンネル・スターン、ブロンバーグなどの議論が挙げられる。

★参考テキスト

D. スターン／一丸藤太郎他訳 (2014) 『精神分析における解離とエナクトメント』創元社

P. M. ブロンバーグ／吾妻壮他訳 (2014) 『関係するところ』誠信書房

岡野憲一郎 (2011) 『続・解離性障害』岩崎学術出版社

「拡張された解離概念と精神分析臨床」

講師 **吾妻 壮**

解離は、意識やアイデンティティ統合の感覚の変容を伴い、多くの場合劇的な外的現れを伴う。一方、自己および他者との関係性の硬直化の背景に、ある種の解離作用を見るという考え方もある。過度に硬直化した語りは、そのような意味での解離の一指標である。そのように拡張された

解離の捉え方の臨床的有用性について考えてみたい。

★参考テキスト

P. M. ブロンバーグ／吾妻壮他訳 (2014) 『関係するところ』 誠信書房

第 4 回 2016年1月17日 (日) 『統合失調症』

「統合失調症へのアプローチ 中井久夫に学ぶ」

講師 杉林 稔

統合失調症に対する治療的なアプローチに関しては、サリヴァンの翻訳・紹介に多大な情熱を注いだ中井久夫による一連の仕事が非常に重要である。私は学生時代に中井の著作に触れて感動して中井が主宰する神戸大学精神科に入局し、多くの薫陶を受けた。統合失調症に対する中井のアプローチの仕方は独特だが魅力に富み、常に発見的である。当日は、統合失調症についての全体的な概要を示しつつ、中井的アプローチの再評価を試みたい。またそれに関連して、内海健や樽味伸による治療論にも触れる予定である。

★参考テキスト

中井久夫 (2010) 『統合失調症 1・2』 みすず書房

内海健 (2008) 『パンセ・スキゾフレニック 統合失調症の精神病理学』 弘文堂

樽味伸 (2006) 『臨床の記述と「義」』 星和書店

「サリヴァンの統合失調症論が心理療法にとって持つ意味」

講師 川畑 直人

よく知られているように、サリヴァンの臨床の基礎は、統合失調症の治療にあり、統合失調症をどのように理解するかという課題が、対人関係論を生み出したと言える。このセミナーでは、ユニークなサリヴァンの統合失調症論を見直したうえで、邦訳されていない著書にある不安の生成に関する理論 (The meaning of Anxiety in Psychiatry and in Life.) を読み解きつつ、それが心理療法にとってどのような意味を持つのかについて検討してみたい。

★参考テキスト

Sullivan, H. S. (1964): The Fusion of Psychiatry and Social Science. New York, Norton.

Sullivan, H.S. (1962): Schizophrenia as a Human Process. New York, Norton. (中井久夫他訳 (1995)

『分裂病は人間的な過程である』 みすず書房)

第 5 回 2016年3月6日（日） 『自己愛』

「愛着の視点からみた自己愛障害の心理療法」

講師 上地 雄一郎

自己愛障害の中核には、弱くて不完全な自己をさらしながら他者に助けを求めることができな
いという問題がある。これは愛着欲求の解離とも言え、愛着理論からみると「回避型」愛着パ
ターンの病理である。このような視点にコフートの視点も加えた立場から自己愛障害とその心理療
法のプロセスを理解し、愛着とメンタライジングの相助作用を利用する介入モデルを提示してみ
たい。

★参考テキスト

上地雄一郎 (2015 予定) 『メンタライジング・アプローチ入門：愛着理論を生かす心理療法』北
大路書房

岡野憲一郎 (1998) 『恥と自己愛の精神分析』岩崎学術出版社

「自己愛の病理について」

講師 鑪 幹八郎

自己愛はナルチシズムとしてフロイトによってとりあげられ、これまで様々な形で論じられて
いる。殊にカーンバーグによって自己愛性人格構造が提唱され、コフートによって自己愛性人格
障害が提唱され、DSM - IIIに取り入れられて一般化した。日本にもなじみある心性の領域であ
り、対人恐怖、引きこもり、恥の心性、脆弱な自己、またアモルファス自己という観点から話し
てみたい。

講師紹介（アルファベット順）

吾妻 壮 Agatsuma, Soh

精神科医・臨床心理士・医学博士・精神分析家・国際精神分析協会正会員・米国精神分析協会正会員

所属：神戸女学院大学

著書：『関係精神分析入門』（共著、岩崎学術出版社）

訳書：P. M. ブロンバーグ『関係するところ』（誠信書房）、J. リア『開かれた心』（里文社）、
B. ビービー他『乳児研究から大人の精神療法へ―間主観性さまざま』（岩崎学術出版社）

上地 雄一郎 Kamiji, Yuichiro

臨床心理士・博士（心理学）

所属：岡山大学大学院教育学研究科

著書：『精神分析的な心理療法の手引き』（分担執筆、誠信書房）

訳書：J. G. アレン・P. フォナギー・A. W. ベイトマン『メンタライジングの理論と臨床』（訳者代表、北大路書房）、P. モロン『現代精神分析における自己心理学』（北大路書房）

川畑 直人 Kawabata, Naoto

臨床心理士・教育学博士・WAWI 精神分析家・WAWI 児童青年心理療法家

所属：京都文教大学／一般社団法人京都精神分析心理療法研究所／(有)ケーアイピーピー

著書：『臨床心理学』（共著、培風館）

訳書：S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる』（監訳、創元社）、F. パイン『欲動、自我、対象、自己』（監訳、創元社）

成田 善弘 Narita, Yoshihiro

精神科医・臨床心理士

著書：『精神療法家の仕事』、『青年期境界例』、『精神療法の深さ』（金剛出版）、『精神療法を学ぶ』（中山書店）ほか

訳書：L. サルズマン『強迫パーソナリティ』（共訳、みすず書房）、J. マスターソン『逆転移と精神療法の技法』（星和書店）、N. マックウィリアムズ『ケースの見方・考え方』（監訳、創元社）ほか

野原 一徳 Nohara, Kazunori

臨床心理士・KIPP精神分析的な心理療法家

所属：愛知淑徳大学学生相談室

岡田 暁宜 Okada, Akiyoshi

精神科医・精神分析家（日本精神分析協会正会員）

所属：南山大学

著書：『精神分析と文化―臨床的視座の展開』（編著、岩崎学術出版社）

岡野 憲一郎 Okano, Kenichiro

精神科医・臨床心理士

所属：京都大学大学院

著書：『外傷性精神障害』、『解離性障害』、『治療的柔構造』、『脳から見た心』（いずれも岩崎学術出版社）ほか

杉林 稔 Sugibayashi, Minoru

精神科医

所属：愛仁会高槻病院精神神経科

著書：『精神科臨床の場所』（みすず書房）、『精神科臨床の星影』（星和書店）、『精神科臨床の足音』（星和書店、2015年春刊行予定）ほか

訳書：R. ワーナー『統合失調症からの回復』（共訳、岩崎学術出版社）

鈴木 健一 Suzuki, Kenichi

臨床心理士・教育学博士・WAWI精神分析家

所属：名古屋大学学生相談総合センター

訳書：S. ビューチャー『精神分析臨床を生きる—対人関係学派からみた価値の問題—』（創元社）

鑪 幹八郎 Tatara, Mikihiro

臨床心理士・教育学博士・WAWI精神分析家

所属：京都文教大学名誉教授／一般財団法人広島カウンセリング・スクール理事長

著書：『著作集第1巻 アイデンティティとライフサイクル論』『著作集第2巻 精神分析と心理臨床』『著作集第3巻 心理臨床と倫理、スーパーヴィジョン』『著作集第4巻 映像・イメージと心理療法』（ナカニシヤ出版）、ほか

訳書：H. S. サリヴァン『精神医学は対人関係論である』（共訳、みすず書房）、ほか

辻 啓之 Tsuji, Hiroyuki

法務技官・臨床心理士・KIPP精神分析的な心理療法家

横井 公一 Yokoi, Koichi

精神科医・臨床心理士

所属：浜寺病院

著書：『関係精神分析入門』（共著、岩崎学術出版社）

訳書：J. グリーンバーグ&S. ミッチェル『精神分析理論の展開』、S. ミッチェル『関係概念と精神分析』『関係精神分析の視座』（ミネルヴァ書房）

会場案内

キャンパスプラザ京都

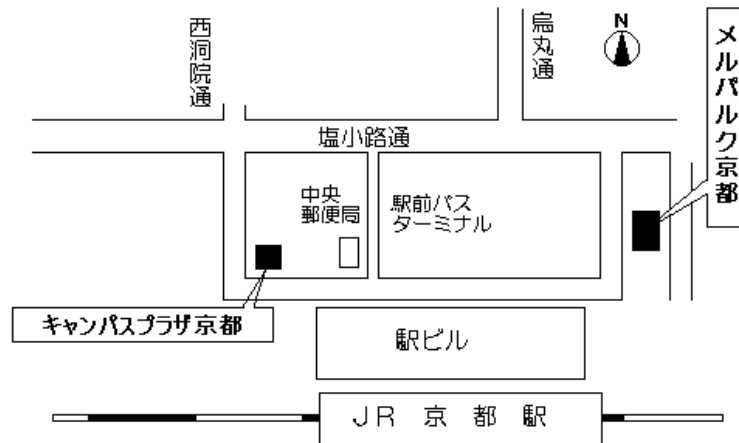
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル

【TEL】 075-353-9111

メルパルク京都

〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676 番 13

【TEL】 075-352-7444



コープイン京都

〒604-8113 京都市中京区柳馬場蛸薬師上井筒屋町 411

【TEL】 075-256-6600

- 地下鉄烏丸線四條駅より 徒歩 10 分
- JR 京都駅より タクシーで約 10 分



※セミナーは「キャンパスプラザ京都」、「メルパルク京都」など京都駅近辺の会場で行います。
※各セミナーの会場は、決まり次第ホームページ <http://www.kipp.jp> に掲載します。申し込みをされた方には、郵送、e-mail、Fax 等で通知いたします。

< 受講申込要領 >

対象	臨床心理士、精神科医、その他の医療・教育・福祉等で心理臨床に関わっている方。 または、それに関わる学生、大学院生。	
申し込み方法	①e-mail 同封の「申し込み用紙」の必要事項を e-mail にご記載の上、お申し込み下さい（その際は必ず PC の e-mail アドレスをご記入下さい）。受付後、振込先を e-mail にてお知らせするとともに、申込受付票を PDF にてお送りいたします。 ②FAX・郵送 同封の「申し込み用紙」に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。受付後、振込用紙と申込受付票をお送り致します。	
申し込み期限	「接点2」シリーズ申し込み セッションごとの申し込み	第1回開始日の2週間前まで 各セミナーの2週間前まで
	※定員に達した場合は申し込み期限より早めに締め切りとさせていただきます。ご了承下さい。	
申し込み・問い合わせ	〒612-8083 京都市伏見区京町4丁目156番地1 桃山ビル3F KIPP 桃山心理オフィス内 一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所 研修委員会 Tel&Fax : 075-623-0823 e-mail : kippmail@nifty.com	
受講料	「接点2」シリーズ(5回)申し込み 一般 30,000円 学生 25,000円	各セッションごとの申し込み 一般 7,000円 学生 6,000円
	※シリーズ申し込みには「基礎セミナー」は含まれておりません。お間違いのないようご注意ください。	
払い込み期限	振込用紙・振込先を受け取り後、セミナー当日1週間前までにお振込み下さい。 ● 初回受講時には、申込受付票と郵便振替払込受領証（またはプリントアウトしたもの）をお持ち下さい。引き換えに名札と研修証明書をお渡しします。 ● 一度納入頂きました受講料は原則として返却致しかねますので、あらかじめご了承ください。	
会場受付開始時間	講義開始時間の15分前より開始いたします。	

*この案内は、過去のセミナー参加者名簿、心理臨床学会名簿、臨床心理士会名簿の情報をもとにお送りしています。以後、案内送付を希望されない方は、恐れ入りますが Fax、e-mail 等でご一報下さい。送付リストよりはずさせていただきます。

*また、お近くに案内の送付を希望されている方がいらっしゃいましたら、事務局にご連絡ください。案内送付リストに加えさせていただきます。